

まちひとしごと

Vol. 41

LOWSTAR

代表 南谷 孝太郎 さん

この場所で楽しさを伝え ともにまちを元気に



スノーボードとスケートボー ドの専門店『LOWSTAR』

R（ローンスター）。同店代表の南谷孝太郎さんに話を伺った。

室蘭市出身の南谷さんがスノーボードに興味を持ち始めたのは小学校高学年の頃。似ているという理由でまずはスケートボードを始めた。周りに教えてくれる人はおらず、何もわからない中で友人たちと専門書を読み、試行錯誤した時間は本当に楽しかったと話す。

「その冬には市内のスキー場でスノーボードを始めました。そこで出会った地元スノーボード専門店の方を通じ、交流の幅が広がっ

たことで、楽しみが増すとともに、技術的にも向上し、さらにのめり込んでいきました」

高校卒業後は、より多くの時間をスノーボードに費やすため、道内のスキー場で腕を磨き、各種大会にも出場。その後、映像作品への参加や海外遠征など、活動の場を広げた。

「本格的にスノーボードを始めから、いつかは二セコでこの思いが強く、20歳で活動の拠点を移しました。その後結婚をきっかけに、スノーボーダーとしてはもちろん、家族の生活を考え、俱知安町で暮らすことを決めました」

この町での生活を始めてから10年以上が経過、新たに町内でスノーボードイベントを開催するなど、さまざまな活動が続ける中、2016年12月に『LOWSTAR』を開業した。

「スノーボードを始めたとき、何もわからない私に、多くのことを教えてくれた専門店の方々の存在はとても大きなものでした。俱知安の子どもたちにとって、この場所がそういう存在になればと考えています」

店舗に入ると目を引くのが併設されたスケートボード練習用の

『ランプ』。ここでは季節や天候を問わず誰もが安全にスケートボードを楽しむことができる。

南谷さんは、以前からスノーボードやスケートボードの楽しさを子どもたちに伝えたいと考えており、この場所を活用して小学生以下を対象にスクールの開始したが、初める前は、需要があるのかなど不安も多かったと話す。

「家族がいたことで、町内の小学生やその両親の『興味がある』『教えてほしい』といった声を聞くことができ、スクールを始める決心をしました。現在は多くの子どもたちがこの『ランプ』に通っています」

店名の『LOWSTAR』には『LOCAL（地元）』の『STAR（スター）』が育つ場所に、という南谷さんの思いが込められており、地域や子どもたちとのつながりを大切にしたいと、毎年じゃが祭りでは、会場に『ランプ』を設置し開放している。スノーボードやスケートボードを俱知安の文化に。町の文化を作る主役となる子どもたちが今この場所で着実に育っている。

※まちひとしごとは不定期連載です